

T I M E S

月刊



2016

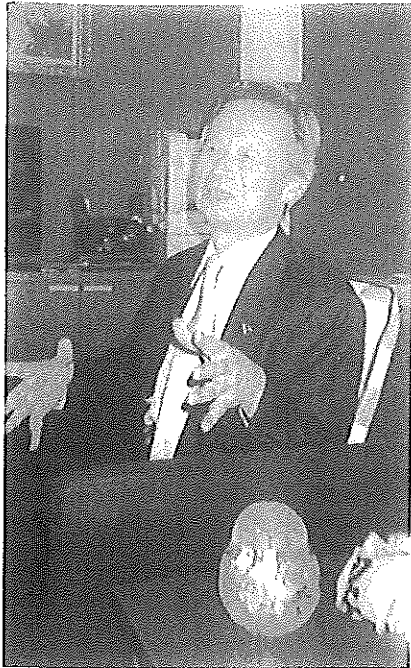
4

APR.

MONTHLY
MAGAZINE

安倍一強体制にどう立ち向かうか
矮小化された TPPの不都合な真実
お粗末なり、日本の情報管理

40年の政治家歴を振り返って 安倍一強体制に どう立ち向かうか



今年夏までの参議院の任期を最後に、民主党の重鎮江田五月議員は政界を引退する。参議院議長（第27代）、科学技術庁長官（第50代）、法務大臣（第87代）、環境大臣（第16代）の要職を歴任。衆議院議員（4期）の経験もある。民主党の結党前には社会民連合代表、社会民主連合代表にも選ばれた現役政治家の中でも屈指のキャリアを誇る。足掛け40年の政治家を持つ同議員に、現在の安倍一強体制の政治状況などについて、率直な意見を語って貰った。

国政選挙不出馬を表明した

江田五月参議院議員に聞く

引退ではなく「任期満了」

香村 江田さんに議員を続けて欲しいという支持者からの要望も強いと思いますが、なぜ政界引退を決意されたのです。

江田 「政界引退」のつもりは全く、任期満了で議員を辞めるだけなのですが、まあそういう言われているうちが華で、早く引退しろと言われる前に辞める決意をしました。

香村 参議院議長として位人臣を極められま

したからね。

江田 いえいえ、お恥ずかしい限りです。

香村 法務大臣もされましたし、多くの要職を経験されましたね。

江田 ええ、仕事をそれだけたくさんさせて貰い、有難かったと思っています。ですがまだ半年あります。政治歴40年の集大成として、ここで安倍内閣を倒すのだ、という決意です。

香村 初当選されたのは何年ですか。

江田 1977年（昭和52年）です。

香村 政治家になる前に裁判官としては、何年務められたのですか。

聞き手 香村 啓文 ●本誌主幹

江田 9年数カ月です。裁判所では10年間務めたら判事になるのですが、判事補で辞めました。もともと特例判事補として、判事と同じ仕事を任され、単独の裁判官も務めています。

香村 後に法務大臣も務められましたから、政治家冥利に尽きましたね。

江田 どうでしょうかね。ただ有難いことに法務大臣になった時は、最高裁も含めて全部僕より後輩ばかりでしたから割とやりやすかったですね。法律家の世界でも司法研修所の先輩後輩関係が、ものを言うのですよ。本当は、そんなことを言っちゃいけないのでしょうか。まあ、半分冗談だと思ってください（笑い）。

香村 そうなんです（笑い）。

江田 ええ、私も元裁判官ですから、法律家同士の各種の共通の信条みたいなものを理解が出来たから、お互いに仕事はしやすかったと思います。

香村 官僚組織ですから、ヒエラルキー構造もあったのでしょうか。

江田 確かに官僚組織の中の上意下達のヒエラルキーもあったのですが、それと同じく法曹としての先輩後輩構造もありましたね。

香村 そうですか。

江田 裁判官を辞めて何十年も経っていましたが、法曹官僚の思考過程が判るので、親族法やIT関連の法

律など、それまで滞っていたいくつもの法案を成立させることができた。その中で一番苦労したのが、取り調べの可視化でした。これを実現する為に刑事訴訟法の改正案にたどり着くまでのきつかけを作ることが出来たと思います。これが出来たのは、やはり法務官僚との共同作業が上手く行えたからです。

安倍の任命責任はあるか

香村 なるほど。そこで実は今日はいろいろ伺いたい。

最初の質問ですが、甘利大臣が金銭授受の問題で辞任し、野党は国会で追及したにも関わらず、世論調査では安倍内閣の支持率が逆にながっています。この内閣支持率の上昇はどこに理由があると思われませんか。

江田 甘利さんが秘書に責任を押し付けず責任を認めて潔く辞め、政府もすぐに後任の大臣を決めたことで危機管理が良かったと言われています。でも良かったでは済まないですよ。下がるのがある程度で抑えられたというのなら判るけど、逆に上がっているのですからね。おいおい、という感じで困っています。

国民の皆さんに訴えたいのですが、甘利さんが「嵌められた」という説があります、大臣には嵌めに来る

人が大勢いるのです。国内からだけでなく、海外からも嵌めに来る人がいるかも知れない。まして明らかに怪しい人物から嵌められたなどという弁解を、甘利さん自身は当然ですが、自民党もしてはいけません。それほど容易く嵌められるような人物を大臣に据えた方にも責任があると思います。

甘利さん自身は、自民党の政治家の中では、政策的にも質の高い人物だったかも知れない。その人物にしてこうなるということは、自民党の政治が利権構造からまだ脱却出来ていないからです。甘利さん個人の問題ではないのです。昔、「構造汚職」という言葉が流行りました。まさに利権構造の中で起きたのであり、甘利さん一人の例外的な疑惑で済まされる問題ではありません。

香村 安倍一強体制の奢りというものもあるのではないですか。

江田 ありますね。政治とカネの問題として、独立行政法人UR（都市再生機構）があり、質の悪い土地所有者があり、その間で金が動いた。国交省の役所にも口利きが行われています。単に良くない民間業者との関係だけではなく、行政機構を悪用した斡旋利得構造があります。大臣など有名政治家は、職務権限のある

なしに関わらず、影響力を行使できます。

香村 そこでですね、野党は安倍さんの任命責任を追及している。安倍さんも自分に任命責任があったことは認めている。野党は総理の任命責任をどこまで追及できるものでしょうか。

江田 よく言われるのは、政治は結果責任だということですが、甘利さんを大臣に起用したこともあって、総理の判断力が狂ったとは言えないでしょうね。甘利さんでさえ、こういうことを起こすということとは、誰でも全部そういうことになっっていることが問題であり、安倍総理一人の責任という話でもない。結局、先ほどの自民党一強体制の奢りが及ぼしている悪習が背景にあります。

香村 すると安倍さんが任命責任を認めたら、それ以上の追及はしづらいつつあることですか。

江田 任命責任と言う場合には、具体的にこういう注意事項があったのに、見逃してこうなったという立証は難しいかも知れません。

香村 それでは甘利さんに自分の秘書に監督責任がなかったというのも、同じでしょうか。

江田 総理大臣が任命した大臣への

監督責任があるのかという点と難しいが、こちらは自分で雇った秘書ですから、具体的に監督責任があります。

政党交付金と企業の献金

香村 そこで先ほどの構造汚職の問題ですが、政治とカネの問題で、野党は、企業団体献金の禁止の法制化を求めると言っています。ただ、民主党内でも労働組合出身の人は、これは考える余地があるという言い方をしており、党内の意見も一致していません。

江田 しかし、これは法案を提出することで一致した筈です。

香村 提出は決まったのですか。

江田 ええ、しかし自民党は、企業や団体と言えども国民の一部に相違なく、企業などが政治の経費を負担するのは当然だという主張をしている。そうは言っても、投票権を持っているのは、個人の有権者であって、会社や団体が投票権を持っている訳ではありませんから、企業や団体に政治参加の権利があるという論理は成り立ち難いのではないかと。それに会社や団体に便宜を図って貰うために献金したら、いくら政治資金規正法上取り繕ってみても、賄賂性を帯びます。あるいは便宜を図って貰う為でなく、純粹に政治の為に献金し



これがなかった、辞めたいと思ってもいかなかった、タッチしては駄目だと言った、トントンとバトンタッチしては駄目だと言った、五月五日の若手議員江田自らと語る

ていたとしたら、今度は株主に対する背任になります。いずれにしても企業・団体献金にはやましいものがある。だから企業・団体献金の廃止を求める声が出てくるのです。

ただ、難しいのは、法律が出来る前に我々が先行して止めますと言えるのか。僕なんかでも政治資金集めのパーティーをやります。上手く表現できませんが、僕は綺麗ごとばかり言っただけで真水のようにして、「私は一点の汚れもありません」ということをウリにしているのか、という気がします。長い政治家人生でパーティー券を売りに行って、気持ちよく買ってくれる場合もありますが、なかなかそうもいかない。1万円のチケットを渡したら、5千円をポンと投げて寄越して、「ほら帰れ」と

言われたこともある。そこで腹わたが煮え繰り返る気もするけれど、「ありがとう」と言うことで、世の中のお金を巡る悲喜こもごもを僅かですぐが味わうことも政治家には必要なんだと。

「我一人が潔し」と言っているようでは、世の中の現実にグツと爪を立てて動かすことは出来ないんじゃないかという気もします。

香村 現実問題として企業・団体献金を全面禁止にすれば、政治資金を政交交付金に頼ることになります。

日本の政治風土は、まだ個人献金はアメリカと違って根付いています。民主党をはじめ野党各党も政交交付金だけで政治をやる覚悟があるのか。国民世論向けのパフォーマンスに過ぎないのではないかと、見る向きもあります。

江田 そこは難しい問題ですが、個人献金は別として、僕は、企業・団体献金を止めるのなら、法律を作ってみんな一斉に止めるべきだと思っています。そうでないと、一人だけ先行して止めても、対等な戦いになりません。

香村 それはそうですね。自前で政治資金を調達できる共産党は、企業・団体献金ばかりか政交交付金も受け取っています。これも当時は

一服の清涼感がありましたけど、現状はそれほど評価されていない気がします。

江田 政交交付金の制度が出来たのは、理由があるのです。国民の為に政治をさせる目的で、国民一人当たり250円を負担することにしたのですが、その意味を国民の皆さんにも意識してもらう必要があると思います。一部には政交交付金を払っているのだから選挙に行かなくても義務は果たしているという雰囲気がある。特に二十歳代は、投票率が3割台になっているのが現状です。

憲法12条には「この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によって、これを保持しなければならぬ」とあります。その不断の努力がだんだんなくなり、日本の民主主義は、老境から老衰になつていっているのではないかと感じさせます。政交交付金のせいで国民が不断の努力を怠るようになったと言われかねない。

香村 政交交付金が出来た当初は5年後に見直す筈だったのですが、各党とも見直しを言わなくなりました。さらに田中内閣の金権問題で中止された企業献金も復活し、昨年は経団連なんかも、傘下企業に積極的に献金を出すことを勧めるようになって

います。いわば、政策を金で買う、政財界の癒着の復活に見えます。

江田 政策を金で買うというのはその通りで、本来はやましさを感じにくくはならない性質の献金です。せつかく中止していたのに再び企業献金を受け取るようになるなど、昔の自民党の政治が蘇ったように感じます。

公務員人件費の見直しを

香村 一方で民主党の方も労組依存の体質から抜け出せないようです。

前原誠治さんが以前、代表選で労組依存からの脱却を訴えていましたが、労組、あるいは公務員改革については、どのように考えていますか。

江田 世の中のどんな制度や組織にも、悪いところや歪んだところがあります。しかし、労働基本権は人類の長い戦いの中で制度化されたものです。勤労者の労働基本権を弱体化させるようなことはしてはいけません。労働組合の活動については、公務員の労働組合の中でも、地方公務員の労組は、これまで勝ち取った権利や制度の上に胡座をかいていた面があり、そこを大阪で非難され、大いに弱体化してしまつたこともある。けれど労働基本権は大切だということは踏まえておかなくて

はならない。一方で公務員が無駄ばかりやっていると批判に対しては、政治のイニシアチブを發揮して直していかなくてはならない。

香村 公務員が多すぎるとい批判があり、公務員の人件費2割カットという案も一部で出ています。江田

さんも親しい榎原英資さんは、「日本は世界的に見ても公務員は多くないよ」と言っていますが、公務員制度は現状のままでもいいのでしょうか。江田 いけないと思います。公務員の人数よりも、トータルに考えての公務員人件費の2割カットは民主党の方針です。しかし、だからといって、人事院勧告の公務員の給与改定に反対は出来ない。公務員と言えども被備者ですし、被備者と使用者の間の給与の決定は、労働基本法に基づき対等な交渉によって決まるとい

う大原則があります。日本の場合、公務員にはその権利がありませんので、人事院制度があり、その勧告ですから、公務員一人ひとりの生活の問題です。公務員全体としてのトータルの人件費と同じ論理で考えることは出来ません。

現行の公務員の給与体系は年功序列であり、子供のいるお金のかかる若い世代の給与は安く、子供が育って出ていった定年間近な層に最も多

く給与が支払われる。これは見直す必要があります。そこをきちんとならばトータルの人件費2割カットは可能だと思えます。

共産党との連合は難しい

香村 この夏に参院選があり、状況次第で衆参同時選挙ということもあります。そこで安倍一強体制を崩す為に民主党と維新の統一会派による新党結成運動も論議されています。江田 やっぱり安倍一強体制は変える必要がある。安倍政権の個々の政策については、反対の声が強いのに、安倍政権の支持率が高いという誠に不思議な現象です。安倍政権の政策に反対でも、これに代わり得る野党が分裂して選びようがない。それで安倍政権を支持せざるを得ないので、国民に対して、自民公明の福袋と野党の福袋、二つの福袋から好きな方を選ぶ単純な選択肢を示す必要がある。その野党連合の結成の一里塚として、民主と維新が合流することを考える必要がある。

香村 その場合、新党結成の為に現在の民主党を解党するのですか。江田 自公に対抗出来る新党の結成は民主党が中心になるべきです。政権を担った経験があるのは民主党だけです。ただし選挙法上、民主党と

違う政党の比例区の議員が民主党に移ることは出来ません。複数の政党が集まり新党を作る為には、一度解党する必要があります、それをせずに誤魔化しの新党結成ではいけない。民主党も新党結成の手続き上解散し、同じ土俵に立つことを他党に示すべきです。

香村 その場合、基本的な理念政策が一致しなくてはいけないと思えます。民主党内の中でも政策理念が必ずしも一致していないのに、他党を含めて一致させることが出来るのですか。江田 そこは程度の問題だと思えます。日本の政党で政策理念が完全に一致した政党は、共産党と公明党です。他の政党の政策理念は、ある程度は一致しているけれど、ある程度はフワツとしています。フワツとしているくせに一致した格好をしているのが今の自民党です。安倍さんが右と言えばみんな右を向く、これも不健全だと思えます。今の民主党のように異を唱えるばかりでまともでないのも問題です。そこは程度の問題です。

香村 安全保障の問題は、民主党内でも意見の一致が難しいと思えます。江田 それでも安倍内閣が可決した

集団的自衛権の法案は、憲法違反の部分があるという点では一致していません。日本が攻撃を受けていないのに集団的自衛権を行使することについては反対です。他国への攻撃が直接日本の脅威になる場合に限り自衛権を行使することを個別自衛権の範囲内として容認する考えなら、民主党内にもありますが、安倍さんのように安全保障関連法で集団的自衛権を認めるやり方には反対しています。

香村 先ほどの野党連合の新党の福袋の中には、共産党も含めるのですか。江田 共産党と政権を共にすることは難しいと思えます。今の共産党は、安保条約もOK、天皇制もOK、自衛隊もOKと言っています。しかし、これは一時的にOKと言っているだけで、現在は安倍の暴政時代だから他党と共闘する為にそこは議論せずにおこうというのでしよう。本来の共産党の主張は、天皇制から共和制、安保反対、自衛隊廃止です。仮に共産党も含めて民主連合政府を作った場合、共産党員の大員が自衛隊の予算に署名してくれるのか。そこまでの信頼関係はまだないと思えます。社民党の大員でさえ署名して貰えずに罷免せざるを得なかったことがあ

りません。

りました。

香村 選挙協力についてはどうです。江田 選挙協力ならいいと思いますし、もちろん閣外協力も構いません。ただ政権内となると、これは相当な信頼関係を築いた後になると思う。

香村 小沢一郎さんの唱えるオリブの木構想は、どう思われますか。江田 あれも一つの方法だとは思いますが。

憲法改正論議には要注意

香村 江田さんは憲法改正についてどうお考えですか。

江田 政治家としての任期が残り半年になって残念ですが、出来ればバツジをつけている間に憲法改正の国民投票をやってみたかったという気があります。日本人も国民自身の投票で憲法を作る経験を持つべきだという思いがありました。

香村 憲法を変えられたらどこを変えなきゃですか。

江田 そこが問題です。かつてドイツのキリスト教民主同盟の憲法問題に携わる議員が来日した際、「我々ドイツ人は、今のドイツ憲法が良い憲法だと思っている。これをさらに良くする為に憲法を改正することを考える。日本人の憲法改正の論議を聞くと、今の憲法は良くないので変

えようとしている。だから今の憲法を良いと思う人たちは抵抗し、憲法改正の論議が進まないのですね」と言われました。まさにその通りだと思います。

日本の戦後70年の歩みは、基本的に成功だったと思う。あの廃墟の中から復興したのですから。僕の子供時代は、憲法25条の健康で文化的生活など遠い彼方の話だった。そこからスタートして今の繁栄と安定を築き、国際社会の中で有数の地位を占めるようになった。この憲法があったから現在の日本があるのです。今で作つた代物だから、改正しなくてはならないとする安倍政権の下では、憲法改正を論議したくありません。

香村 安倍政権は、次の選挙で参議院でも3分の2の議席を取ることで、緊急事態条項等の憲法改正の発議を狙っているのではないですか。

江田 安倍さんには、憲法改正を自分の手柄にしようとする下心が透けて見えます。憲法改正は、与野党協力の下で行うべきです。今の自民党の中からは、緊急事態時に人権を制限するような議論が出てきている。だから我々は、安倍内閣の憲法改正論議には警戒心がある。

香村 民主党は政党支持率が一桁と

低迷し続けている。何が原因なのか。3年3カ月の政権時代はいいたい何だったのか。

江田 支持率が上がらないのは、やはり国民が受けた失望感があまりにも大きかったからでしょう。失望の理由は二つあり、一つは民主党の与えた期待が大き過ぎたことです。普天間のことや子ども手当の金額などです。政権担当は現実との関わりであり、現実が理由があつて存在しているのですから、これを変えるのは漸進的にしか出来ません。少しづつということが、あまり分かっていなかった。

しかし二つ目の理由の方が大きく、それは脱落者が大量に出たことです。「社会保障と税の一体改革」は、国民に負担を求めるものであつて、国民に納得して貰う必要があつた。しかし、国民の反発を恐れてこれに従

いて来られない人々が、大量に足並みを乱しました。異論があつても、最終的に党が結束を乱さなければ、国民は理解してくれたと思えますよ。そのあたりの覚悟が定まっていなかった。今の民主党は、政権担当を経験してその覚悟の定まった人たちの集まりですから、大切な集団なのです。

香村 次の選挙で、最も重要な争点

になるのは何でしょうか。

江田 安全保障や集団的自衛権の問題と、今のアベノミクスで本当に良いのかと、特に若い人たちに問いかけることだと思います。18歳選挙権が始まる時でもありますので。

香村 最後に、江田さんが今回不出馬を決めたのは、菅直人さんを辞めさせる便方だとインターネットに書かれていましたが、本当ですか。

江田 ネットの皆さんは、いろいろ忖度されて書かれるようですね。僕自身が引退を表明するのは、非常に困難でした。政治家が悪いことをして辞めるのは簡単ですが、自ら若手にバトンタッチして辞めるのが、これほど困難だとは思いませんでした。周囲の説得に去年の11月半ばまでかかり、それから後継者を探しました。決して裏の事情がある訳ではありません。

香村 これからは弁護士として活動されるのですか。

江田 弁護士もありますが、例えば僕は公益財団法人日中友好会館の会長をやっており、日中関係についてもやりたい。こちらの仕事も結構忙しく、なかなか隠居させて貰えそうにない。

香村 今日は、お忙しいなか、長時間ありがとうございます。